



青少年指導員だより

金沢区

ユース
Youth 21

愛称・あいちゃん

発行 金沢区青少年指導員協議会
編集 広報部会金沢区泥亀2-9-1 金沢区役所 地域振興課内
電話 (045) 7 8 8 - 7 8 0 5 番
FAX (045) 7 8 8 - 1 9 3 7 番

青少年指導員研修会

6月20日(土)金沢区役所3階2・3号会議室において、金沢区青少年指導員協議会研修会が開かれました。今年の研修会では、日頃の青少年指導員活動のヒントとなるように、さいたまユースサポートネット代表 青砥 恭(あおと やすし)氏をお迎えして「貧困と格差社会を生きる青少年の姿」というテーマで講演をしていただきました。

最初に、NHK教育テレビで特集された「ETV特集 本当は学びたい」という番組の冒頭15分が上映され、さいたまユースサポートネットの活動と、その活動に関わる若者たちの様子が紹介されました。映像では、望まぬ貧困のために意欲を失い、居場所を無くした若者が発する実際の声を聞くことができました。また、さいたまユースサポートネットでは、様々な理由から居場所を無くした若者たちのために多くのボランティアが活動していることが分かりました。

続いて、青砥氏が今回の研修のために作成した資料を用いて講演が行われました。まず、川崎で起きた事件と関わった若者たちの周辺環境が紹介され、現在の日本社会において子どもたちの間に貧困による格差が広がっていることが伝えられました。さらに青砥氏たちが調査をした結果が紹介され、格差や貧困状態にある若者たちが、そのために不安を抱え、自信喪失に陥り、社会から取り残されていることが伝えられました。このような現状をふまえ、貧困による格差に苦しむ若者たちが社会から取り残されないような仕組みや居場所を作ることが必要であることを強く訴えられていました。

講演後には質疑応答も積極的に交わされ、2時間という時間が短く感じられる充実した研修会でした。地域として、どのようにこうした問題に取り組むべきであるか深く考えさせられるとともに、今後の青少年指導員としての活動に活かしていきたいと思いました。



講師の青砥氏

総会を開催



小林会長

5月22日(金)金沢区役所にて平成27年度金沢区青少年指導員協議会 総会を行いました。

まず、國原金沢区長より永年勤続者顕彰が行われ、6年勤続として金沢南部地区の船津雅秀さんが表彰されました。

次に小林会長と出席された当協議会の顧問よりあいさつがありました。金沢警察署の箕輪生活安全課長からは「自転車盗難が増えており、未施錠の場合が多く鍵かけの注意喚起をしている。また、未成年者の重大事件では必ず前兆があるので皆さんとともに青少年を見守っていききたい。」と地域の状況などについて話をいただき、金沢保護司会の和田会長からは「私たち大人が住みやすい金沢区にしていきたい。」と地域環境づくりの大事さが伝えられました。

その後、事業計画等について審議を行い、今年も様々な事業を行っていくことが了承されました。総会は青少年指導員協議会の1年のスタートとなる大事な会議なので、多くの指導員に参加いただけることが望まれます。今年も皆さんと協力して充実した活動ができる1年としたいと思います。



金沢区長「子どもたちに人間同士の生身の関係を築くことの大事さを伝える必要があります」

全市一斉統一行動パトロール



実施日:7月25日(土)



内閣府では昭和54年から毎年7月を非行防止に関する月間とし、平成22年度からは「青少年の非行・被害防止全国強調月間」としています。これに合わせて横浜市では、青少年指導員の委嘱を受けた2,686人が市内各地区で一斉に夜間パトロール活動を行いました。

金沢区でも、123人の青少年指導員がコンビニ店舗、繁華街、駅前や公園などの青少年が集まりやすい場所をパトロールし、社会環境の健全化へ向けた活動を行いました。

納涼祭などの行われている地区では子どもも見かけましたが、それ以外の公園などでは子どもをほとんど見かけませんでした。地域との連携をとり、色々な場面で青少年を取り巻く環境の健全化に努めていきたいと思えます。

◆ 青少年の深夜外出の制限 ◆

保護者は、特別な事情がなければ、深夜（午後11時から午前4時までの間）に、青少年（18才未満）を外出させてはいけません。

「特別な事情がある場合」を除き、深夜に青少年を連れだしたり、同伴したり、とどめたりしてはいけません。30万円以下の罰金になります。

（神奈川県青少年保護育成条例より）

青少年の健全育成を進める県民大会

7月11日(土)に平成27年度 青少年の健全育成を進める県民大会 が県立青少年センターで開かれました。司会を横浜市立南高等学校の古瀬智美さんと田口琴音さんの2人の高校生がつとめ、オープニングでは県立金沢総合高等学校ダンス部の皆さんが見事な踊りを披露してくれました。

基調講演では、興梠 寛(こおろき ひろし) 昭和女子大学特任教授により「～必要とされることの意味～自分探しの旅とボランティアライフ～」をテーマに講演が行われました。教授は東日本大震災後の数か月のうちに学生を連れて被災地に入りました。その被災地には、小さな「絵本館」がありました。そこに子どもたちがいたので、学生たちは絵本を読み聞かせてあげようとしたのですが、逆に、子どもたちは学生に絵本を読んで聞かせました。その後、学生が発した「先生、ボランティアをされる側はつらい、ボランティアする側になりたいんです」という言葉が、教授の印象として強く残っているそうです。「必要とされることの意味」を考えさせられる話です。

次に、人はなぜ生きているのか、という事について話されました。「ソフィーの世界」という本から「自分を必要としてくれる人に出会うために生きているんだ」ということ、作家ジョン・スタインベックの言葉から「少年は必要とされて初めて大人になる」という話をされました。また、「ギャップイヤー（今回の講演では、イギリスやヨーロッパの国々で大学修学中の1年間をボランティア活動にあて社会的見聞を広めるという意味で使われていました）」についても話されました。この制度を日本でも広めようとしているが、なかなか普及しないとのこと。さらに「なぜ学ぶのか」という話では、バングラデシュの子どもの話で「将来、学校の先生になって子どもたちに教えるため」と話したその言葉が印象的だったと話してくださいました。

基調講演の次に、パネルディスカッションが行われ、日本大学教授の佐藤晴雄氏をコーディネーターに、パネリストは興梠教授、県立釜利谷高等学校総括教諭の穂積啓之氏、そして青少年パネリストとして日本大学高等学校の高橋領佑さんと石田未歩さんの5名により、コミュニケーション能力の高め方、初めてボランティアに参加する時の心構えなどが話し合われました。この大会に参加して、有意義な話が多く興味を持って話を聞き、またたく間に過ぎた3時間でした。



2015ジュニアサマーキャンプ



8月2日(B)	
6:00	起床
7:00	朝食
8:00	準備
8:30	バス
11:00	昼食
13:30	自然観察
16:00	夕食
18:00	キャンプファイヤー
21:00	夕食
22:00	就寝

8月1日(土)～3日(月)金沢区青少年指導員協議会主催によるジュニアサマーキャンプを山梨県道志の森キャンプ場にて行いました。

このキャンプは、区内の小学4年生から高校3年生までを対象に募集し、今年は小学生63人の参加と、青少年指導員・看護師を合わせたスタッフ20人の合計83人で行いました。



集合場所の区役所からバスに乗り、キャンプ場へ到着したあとは川遊びを楽しみました。夕食のカレーはみんなで作る予定でしたが、今にも雨が降り出しそうな天候になり、屋外で調理をするために急遽スタッフのみで作ることとなりました。そのため、子どもたちの中にはカレー作りをできずに残念がる子もいました。おいしくカレーを食べた後はナイトウォークです。班ごとに真っ暗な夜道を1つの懐中電灯を頼りに歩き、途中でスタッフが驚かすのですが、ある班は道を間違えてしまい、誰にも驚かされないまま夜道をさまよってしまうハプニングもありました。

2日目の鱒のつかみ取りは、川の流れの穏やかな場所に石やネットで囲いを作った中で行います。簡単につかむ子

もいれば、怖がってなかなか手を出せない子もいましたが、そんな時に上級生が下級生を手伝って一緒に鱒を追う姿も見られました。そのあと、子どもたちはつかまえた鱒をまな板の上ののせ、慣れない手つきでナイフを持ち自分でさばきます。怖がる子にはスタッフも手助けしながらさばきました。さらに塩コショウで味付けし、ホイルで包み焼きにして自分たちの昼食になります。続いては、小麦粉に水とイースト菌を入れ、こねて発酵させパン生地を作り、それを竹串に巻き炭火にかざして焼き上げます。自分で調理した鱒やパンは自宅の食事や学校の給食とは違ったキャンプごはん独特の美味しさを感じたのではないかと思います。

夜はキャンプファイヤーを行いました。班ごとの出し物の発表のため、食事やお風呂の待ち時間や自由時間を使って練習を繰り返し、本番では上手に歌やダンスを披露したりクイズ大会をしたりみんなで楽しみ、最後は花火大会で盛り上がりました。

最終日は感想文を書き、宿泊したバンガローをきれいに清掃し、キャンプ場に別れを告げ金沢区に帰ってきました。

青少年指導員スタッフとして参加し、3日間という限られた時間の中でも子どもたちの仲間を思いやる気持ちや班行動を行うときの団結力など、子どもたちの成長を感じるとともに、子どもから沢山の笑顔をもらい、とても楽しく活動することができました。今後も子どもたちが色々な体験を通して「何かを感じる」ことの手伝いができるような青少年指導員の活動を続けていきたいと思えます。





ジュニアマリンレスキュー

金沢南部地区



8月6日(木) 文庫小学校の体育館とプールを利用して、金沢南部地区BFC(少年消防クラブ)の行事としてジュニアマリンレスキューを開催しました。夏の陽射しが照り付ける中、小学3年生～小学6年生の男女27人が参加しました。講師として「海の公園」のライフセービングクラブの方に来ていただき、水泳時や水の事故にあった際に身を守るためのお話を聞き、ビデオを鑑賞しました。その後、服を着たまま、靴も履いたままプールに入り、服を着たままでの泳ぎの難しさを実感してもらい、いざという時のための背浮きの練習や、空のペットボトルを使った緊急時の浮き方の訓練等も行いました。

子供たちはプールでの訓練を楽しみながら夏休みの1日を過ごす事が出来たのではないかと思います。

じゃがいも掘り

金沢地区

6月7日(日) 金沢地区連合町内会主催の青少年健全育成行事として、「じゃがいも掘り」を柴シーサイドファームで行いました。当日は天候にも恵まれ、子ども65人、大人21人の参加者と青少年指導員7人、総勢93人が集合場所の走川公園から途中休憩を入れながら1時間ほどかけて徒歩で向かいました。

現地に到着後、みんなで一齐に掘り出し、持参したビニール袋に沢山のじゃがいもを詰め込みました。小さな子はごく浅いところしか掘り出せなかったため、青少年指導員が手伝って掘りすすめると、中から沢山のじゃがいもが出てきて、まわりにいる子どもたちも驚いていました。

じゃがいも掘りの後は各自持ち寄りのお弁当を食べ、恒例のビンゴゲームで盛り上がりました。今回も各町内会の役員、保護者の方と協力しながら行事を無事に終えることができました。今後も子どもたちが楽しめるイベントを開催していきたいと考えています。



人物紹介シリーズ① 伊藤 豊さん 金沢シーサイドタウン地区

【縁の下の力持ち】

わが地区では、毎年4月29日に地域のつつじ祭りで「遊び天国」というイベントを行っています。アートバルーン、紙飛行機、笛、フリスビーなど大勢の子どもたちと手作り工作をして遊びます。こういう行事には下準備が必要です。また新しい遊びを探したり、それを他の青少年指導員に教えたりすることも大切です。この担い手を一手に引き受け、準備してくれる「縁の下の力」の存在は、伊藤さんです。昨年度は金沢区青少年指導員協議会の広報部会、今年度は育成部会に所属し活躍しています。金沢まつり「いきいきフェスタ」で行った遊びや、自分が子どもの時に遊んだことを思い出し、遊びの種類を増やし、みんなと相談しながら、行事ごとに遊びの変化をつけています。7月の地区定例会では8月に行う「遊び天国」に向けて勉強会を開きました。伊藤さんの活躍や、皆の積極的な協力があって、「遊び天国」では安心して子どもたちと遊んでいます。



紙飛行機を作成した伊藤さん

編集後記

今年の夏は暑い日が続きましたがどのようにお過ごしになりましたか。本号から各地区の“熱い”青少年指導員の人物紹介を行いますので是非ご覧ください。地域の皆様により身近に感じていただける広報紙を作りたいと思います。